



連載 患者さんを支える！ チーム医療

第9回 東京歯科大学市川総合病院 口腔がんセンター

お話をうかがったのは…

柴原孝彦氏 (東京歯科大学口腔外科学講座主任教授)



病診連携を進める口腔がん検診ナビシステム

2006年4月、全国初の口腔がんに特化した施設として設立された東京歯科大学市川総合病院 口腔がんセンター。同大学口腔外科学講座教授を務める柴原孝彦氏は、わが国の口腔がんの現状について危機感を募らせる。

「わが国の口腔がんは増加傾向にあり、若年化しています。にもかかわらず認知度が低く、発見が遅れるため、5年生存率は全国平均で約6割です。もし初期の段階で発見できれば、治癒率は高く、経済的負担も軽減されるわけです」

柴原氏によると、患者さん自身あるいは歯科医師が口腔内の病変に気づき、専門機関で口腔がんの確定診

断が出るまで約4か月かかるという。

「口腔がんは他の臓器のがんと比べて視診・触診ができるので、歯科医師が『がん』を疑う目があれば早期発見ができ、がんの進行を食い止めることができるのです」

歯科医師の大多数は開業歯科医師であるため、口腔がんの早期発見や予防に対する責任は大きいといえる。しかし、元来歯科医院は自己完結型であるため、よほどの難症例でない限り医科のように大学病院などに紹介することは少ない。

そこで、東京歯科大学は本年2月、開業歯科医師を対象にした口腔がん検診ナビシステムを開局した(図1)。本システムは、インターネットを介してコントロールセンターの役割となる同大学口腔外科学講座の口腔外科専門

医以上の5名が、開業歯科医師の質問に回答するもの。柴原氏は本システムの特長についてこう語る。

「デジタル情報のみでは診断を下すことができませんのであくまで専門医の意見となりますが、チェアサイドで口腔粘膜疾患などに関する専門医の意見やアドバイスを受けることができる点が最大のメリットです。また、意見を聞けるだけでなく他の歯科医師の先生方が相談した内容も閲覧することが可能です。さまざまな口腔粘膜疾患の症例を学ぶことができる教育ツールとして歯科医師だけでなくメンテナンスを行う歯科衛生士も活用できます」

柴原氏は、病診連携の必要性を挙げるとともに、本システムがさらなるネットワークの推進に貢献できると自信を込める。

「当システムは歯科医師会単位での運用となりますが、すでに千葉県歯科医師会(千葉県)、江戸川区歯科医師会(東京都)、上十三歯科医師会(青森県)と連携しており、京都市南歯科医師会(京都府)との連携もこれから始まる予定です。今後は、二次医療機関が遠い地域にも貢献できると思っています」

国民の健康増進に寄与する本システムのさらなる普及に注目したい。



図1 口腔がん検診ナビシステムの概要図。



Volume 20 世間話とコミュニケーション

雑談や世間話というと、皆さんの中には、昔から年配の女性などがよくするものと思っている人が多いのではないのでしょうか。

患者さんや職場の同僚、上司などとする毎日の世間話が苦痛でならないという人もいるかもしれません。なかには真面目な話はできるけれど、世間話ができないという人もいるでしょう。とくに若い人は、世間話を苦手としている人も多いかもしれません。最近では、メールや無料通話アプリ「LINE」では軽い受け答えができて、誰かと面と向かって話すとなるとなかなか難しい、という人も多いのです。

また、内気な人にとっては、「軽く話す」の「軽く」が難しいことかもしれません。

しかし、こうした世間話をする機会は、年齢を重ねれば重ねるほど増えるものですし、実は世間話は何の役にも立たない時間のムダ使いではありません。世間話は自分から話題を提供し、相手に興味をもたせることが必要です。コミュニケーションをとっている相手のニーズを理解して話すのは、人間関係の駆け引きの基本です。そのような観点からいうと、世間話は高度なテクニックを要します。

また、職場で仕事以外のことについて話すのは、仕事を行っていくうえで重要なことです。他愛ない話題だからこそ、接点のないところから関係性が生まれ、それが本題への潤滑油、あるいはミーティングのアイスブレイクとなります。

とはいえ、苦手なものは苦手なもの。どのように世間話をしてよいかわからないという場合は、最初から無理をして話を振るのでなく、話しかけられたときにどのように対応するかに重点を置いてみましょう。その際のポイントは、自分の言葉でしっかり応答することです。これさえできれば、会話力は確実にアップします。

たとえば、「髪の毛切ったんですね」と言われたら、「まあ、ちょっと……」などと適当に濁していませんか? 適当に言葉を濁したり、あしらうような受け答えでは、人とのコミュニケーションは成り立ちません。どんな会話でも、きちんと自分の言葉で相手にわかるように伝えることが大切です。このような場合は「気分を変えたくなくて」、「暑いのでさっ



山本晴義 やまもと・はるよし 横浜労災病院 勤労者メンタルヘルスセンター長/医学博士

ぱりしたくて」、「歌手の〇〇をイメージしてみたいです」など他愛のない理由でよいので、きちんと相手に自分の言葉で意思を伝える練習を普段からしておきましょう。自分の意思を伝えることができれば相手も納得しやすく、会話が広がりやすいでしょう。何気ない世間話を大事にすることで、普段の会話や仕事上の広がりも増えるかもしれません。精神科医の齊藤茂太氏は「ムダな知識を得るよりも、ムダ話をしたほうがよほど良い」と言っています。

世間話は、自分と相手の興味を見つけるために大切なこと、自分自身の視野を広げることができる重要なコミュニケーションと考えましょう。

Illustration titled 'こんな会話を振られたらどう返す?' (How to respond to such conversations?) with examples of questions and responses.

Advertisement for 'レストラン イジマ' (Restaurant Ijima) featuring '常陸牛' (Hitatsugu Beef) and 'ローズポーク' (Rose Pork). Includes contact information and a list of menu items.

Advertisement for '世界のデンタルグッズ' (World Dental Goods) featuring 'Billy Bob Pacifier' (ビリーボブおしゃぶり). Includes an image of the product and text describing its popularity and safety.